

平成27年度 村上市特別活動部 活動報告

部長 中村 巖

1 研究主題

- ・人間関係づくりを大切にされた特別活動の在り方

2 研究の概要

- ・ライフスキルプログラム研修と情報交換会
- ・授業研修「学級活動の授業」を手がかりに研究主題にせまる

3 研究の実際

(1) ライフスキルプログラム研修

部員の中の1名が講師になって、右のような活動シートを用いて模擬授業を行った。

T: ご飯、パン、麺でどれが好きですか？

(T:好きな季節(果物)は?)

C: なかなか答えが同じにならないね。

C: 同じになることはあまりないんだ。

- ・私のご飯が好きのように、友だちはパンが好き。
- ・～は似ているけれど～は違っている。
- ・私は私、友だちは友だち。どちらもよい。

C: 違っていいんだ。

模擬授業を通して、「いろいろな人がいて当たり前なんだ。」「人はみんなと同じところもあれば違うところもある。」ということを実感できた。自分らしさに気づき、互いを尊重し合うことをねらった模擬授業であった。

(2) 情報交換会

各学校の行事計画を持ちより、情報交換をした。行事を通してどのようにして豊かな人間関係づくりを行っているかを学び合うことができた。

(3) 授業研修

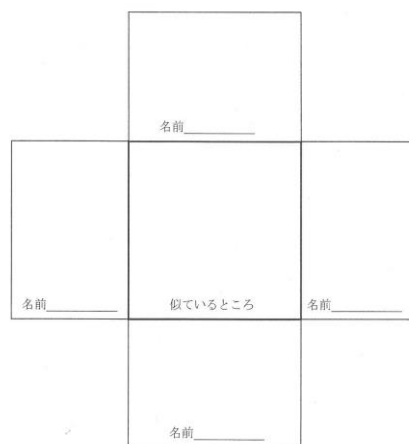
関川小学校の3年生の学級活動を参観し、協議会を行った。

「お楽しみ会をしよう」という活動で、本時は、『互いの考えを交流させて、お楽しみ会の内容を決定する』話し合いであった。Aグループの案(かぼちゃドッジボール)とBグループの案(お店を開く)それぞれを支持する児童から、活発な意見が発表された。

- ・話し合いは平行線をたどった。互いに自分の考えに固執、相手案の否定が続いた。
- ・それぞれの案のよさに気付かせたいという意図をもち、教師は再思考を働きかけた。
- ・お楽しみ会の目的を達成するにはどちらの案がいいのだろうかという意識の共有には至らなかった。
- ・多数決による決定を行った。

似たもの4人

外側の四角形の名前を書くところに、グループのメンバーの名前と、それぞれの個性的な特質を書き込みましょう。真ん中の四角形の中に4人に共通する特質を書き込みましょう。



4 成果と課題

- ・「人間関係づくり」の手法を習得するための効果的な研修ができた。
- ・「ライフスキル教育プログラム」の有効性を確認できた。
- ・「ライフスキル教育プログラム」の年間指導計画に基づき全校で取り組むことが大切である。